

れんけいと支援

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face,

Heart to Heart

富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112(代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> 発行日 2022年6月

肝炎とは

消化器内科

上山本 伸治



今回は、ウイルス性肝炎（B型、C型）についてお話ししたいと思います。

ウイルス性肝炎は国内最大級の感染症で、肝炎ウイルスに感染している人は300万人～370万人にのぼる（日本人の約40人に1人）と推計されています。また、慢性ウイルス性肝炎は自然に治ることはなく、自覚症状がないまま進行し、肝硬変・肝がんになります。現在、がんによる死亡数で5番目に多いのは、肝がんですが、原因の約80%はB型・C型のウイルス性肝炎で、約15%がB型肝炎由来です。肝がんは慢性肝炎・肝硬変から発症するので、肝がんになりやすい人がはっきりしており、予防が可能ながんの一つといわれています。

B型肝炎とは？

成人になってB型肝炎に感染すると、肝臓の細胞が破壊されて肝臓の働きが悪くなる場合があります。ただし、ほとんどの場合、一過性で自覚症状も出にくいいため、気づかないうちに終息します。まれに、劇症肝炎など、症状が重くなることもあるため注意が必要です。一方、3歳までの乳幼児期にB型肝炎に感染すると持続感染（キャリア）になります。肝炎を発症しない無症候性キャリアの方が9割を占めますが、1割の方では肝炎を発病し、肝硬変や肝がんへ進展します。

感染の仕方やウイルスのタイプによって、

病気の進行の仕方に違いがあることがわかっています。

C型肝炎とは？

C型肝炎はC型肝炎ウイルスによって感染して起こる病気です。C型肝炎は慢性化しやすくC型肝炎ウイルスに感染した人の約7割が慢性肝炎を発症し、放置しておくと肝硬変、肝がんへと進展することがあります。日本の肝がんの原因でもっとも多いのがC型肝炎で、約7割を占めます。患者さんの半数以上は50歳以上で、男性のほうが女性より病気の進行が早い傾向にあり、女性は男性より10年から20年遅れて病気が進行します。以前は、C型肝炎の治療は困難でしたが、現在では、2～3カ月の内服治療で、ほとんどの方がウイルス排除でき、肝炎の収束をはかることが可能となっています。

肝臓は「沈黙の臓器」といわれ、自覚症状がないまま病気が進行してしまいます。肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、血液検査で調べることができ、1週間程度で検査結果が出ます。感染が分かった場合は、必要な定期検査や適切な治療を実施すれば、肝硬変・肝がんの発症を予防することができますので、検診で肝機能異常を指摘された方や35歳以上の方からご相談を受けられた際には、是非、肝炎ウイルス検診をおすすめください。



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

※会場またはWEBでの参加が可能です。

※令和4年4月の開催から、症例検討1例30分、ミニレクチャー1題30分で開催しております。

ご参加のほどよろしくお願いいたします。（日本医師会生涯教育制度のカリキュラムコードの付与は、今までと同じ2つとなります。）

日時：7月12日（火） 19：00～20：00 場所：当院3階 講堂

1) 症例検討

「縦隔腫瘍に対する胸骨吊り上げ法を用いた鏡視下手術」

呼吸器外科 土岐 善紀

2) ミニレクチャー

「医療用麻薬を開始するときの工夫

～薬剤の使用法、副作用対策から患者家族への説明まで～」

緩和ケア内科 船木康二郎

緩和ケアについての理解が広がり、医療用麻薬を使用する時の患者・家族・スタッフの誤解や抵抗は以前に比べると少なくなってきたように感じます。それでも医療用麻薬と聞くと身構えてしまったり、できれば使いたくないと感じてしまったりすることがあるようです。

今回のミニレクチャーでは、当院で医療用麻薬を使用する時に行っている以下の工夫について述べさせていただきます。

①医療用麻薬を使用する前から医療用麻薬につ

いて説明をしておく

②医療用麻薬に指定されていない薬剤から使用して効果を実感してもらう

③少量の医療用麻薬の頓用から開始する

④副作用対策をしっかりし、できるだけ安全に使用できるようにしていることを説明する

医療用麻薬に限らず様々な薬剤を安全に適切に使用でき、痛みなどの症状ができるだけ少なく過ごすことができるようになっていければと考えます。

予告

※8月の地域連携症例検討会の開催はありません。

9月の予定は下記のとおりです。ご参加お待ちしております。

日時：9月13日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 1例（担当）血液内科

②ミニレクチャー 1題（担当）歯科口腔外科

地域連携症例検討会に関しては、今後もWEBを利用したハイブリッド方式で開催していくことを計画しています。つきましては、ZOOM会議のご案内に関して参加される先生方の利便性に鑑みURLならびにQRコード等をお送りするため、下記のメールアドレスへ①貴施設名 ②氏名を明記の上、メール送信いただきますよう、よろしくお願いいたします。一度登録していただければ今後継続してご案内をメールでお送りいたします。

ttm2168@tch.toyama.toyama.jp

（ふれあい地域医療センター 地域医療連携室）

2. 定例の研修会、看護研修

※COVID-19の状況を見ながら再開の予定です。



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

ターミナルケアエキスパートナースの活動

ターミナルケアエキスパートナース 林 里佳

当院では現在、がん看護専門看護師1名、緩和ケア認定看護師2名、ターミナルケアエキスパートナース1名の計4名が活動しています。

2021年10月に緩和ケア病棟は閉鎖となりました。「あれ、ターミナルケアエキスパートの人って何しているの」と思われた方、ご心配なく！現在の私たちの活動内容をお伝えします。

これまで通り緩和ケア内科外来では、外来通院中の患者さんに対し、薬剤の調整や飲み方の工夫、日々の過ごし方をともに考えながら、苦痛なく過ごせるよう援助しています。入院中の患者さんには、病棟スタッフと情報の共有・交換し過ごししやすい日常生活を提供できるよう活動しています。

また、がん何でも相談室では、がんと診断・告知され

た方やその家族に寄り添い、治療中のつらさや不安が軽減し笑顔で前向きに過ごせるよう援助しています。

さらに、こども保育課で保育所での医療的ケア児の受け入れが出来るよう、家族ケアやコミュニケーションスキルを活かして病気を持つ児童や保護者に寄り添い活動しています。

患者さんや家族の希望を尊重し、より良い療養生活を送れるよう地域のスタッフと連携したり、ふれあい健康講座では市民の方に緩和ケアについての講座を行ったりしています。患者さんとの関わりや出会いの中で学ばせていただいた多くのことを、一般病棟や地域の方々に還元できるよう活動を続けていきたいと思っています。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

7月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	寺崎敏	29日	形成外科	林	11日、12日
	桶家	21日、22日	皮膚科	野村	11日
	大田聡	1日		大村	27日
	石坂	1日	小児科	和田拓	22日
	伴	13日		和田優	25日
外科・消化器外科 乳腺外科	竹下	28日、29日	眼科	山田	25日
	名倉	28日		高松	29日
	山崎	13日	耳鼻いんこう科・ 頭頸部外科	辻	25日、27日、28日
	中村	1日		児島	14日、15日
産婦人科	田中	1日	歯科口腔外科	寺島	19日、29日
	布村	8日		朽名	7日、8日
麻酔科	永川	7日			

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

2019年末に新型コロナウイルスが確認され、世界各地に拡大し2年が経過しました。日本でも2020年3月から新型コロナウイルス感染症が拡大し、イベントや学校行事の中止が相次ぎ、私たちにとって我慢の2年間となりました。

今年度に入り、イベントや学校行事が少しずつ再開されています。感染対策を行っての開催ではありますが、イベントや学校行事が再開されることをうれしく思います。

いつか新型コロナウイルス感染症拡大前の生活に戻り、マスクなしで顔を見て過ごせる日が来ればいいなと願うばかりです。

ふれあい地域医療センター 池田 満智子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> / がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp